



©2005 石塚真一小学館

第340号 <令和6年(2024年) 5月9日>

信州の山岳遭難現場と全国の登山者をつなぐ  
特別隊員

## 島崎 三步 の「山岳通信」

長野県の山岳地域で発生した遭難事例をお伝えし、「安全登山」のための情報を提供しています。(詳細は以下のとおり)

### ■ 春の大型連休中、過去10年間で最も多い山岳遭難が発生！

4月27日(土)から5月6日(月)までの大型連休中に長野県内で発生した山岳遭難件数は、26件(前年比+8)・30人(+9)でした。30人の内訳は死者3人(前年比-1)、負傷者15人(+6)、無事救出12人(+4)でした。過去10年間では最も多い発生となりました。

<山 域>	①北アルプス 17件	②八ヶ岳連峰 4件	③その他 4件
<態 様>	①転倒 9件	②転落・滑落 7件	③道迷い 3件
<年 齢>	①40代~50代 13人	②60代以上 9人	③0代~30代 8人

天気・防災情報 <https://www.jma-net.go.jp/nagano/>

信州 山のグレーディング <https://www.pref.nagano.lg.jp/kankoki/sangyo/kanko/gure-dexingu.html>  
を確認し万全の準備で入山を！

### 【長野県警山岳安全対策課からの“ワンポイントアドバイス”】

4月30日の週は、長野県内で18件の山岳遭難が発生しました。転倒や滑落による遭難が多く発生しています。また、春の大型連休中に発生した山岳遭難は26件で、昨年の18件から大幅に増加しています。

大型連休中に発生した山岳遭難の中には、「疲労で行動できない」、「装備が無いため行動できない」、「技術不足で行動できない」等の山岳遭難が複数ありました。

これらの山岳遭難を防ぐには、入山前の準備が非常に重要です。山域によって必要な装備は異なります。アルプス等の高山の登山はしばらくの間は、アイゼンやピッケルが必要です。事前の情報収集をしっかりと行いましょう。

また、「信州山のグレーディング」を参考に、自分自身の体力・技術で登山できる山なのか、よく確認しましょう。そして、日頃のトレーニングや体調管理を万全にして、安全登山をお願いします。

■発生状況

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
4月25日	戸隠連峰 西岳	男	58	死亡	滑落	2人パーティで2月24日にP1尾根を下山中、滑落し、以後、行方不明となっているもの(4月25日に遺体で発見)
4月30日	北アルプス 北穂高岳	女	54	死亡	滑落	4人パーティで山頂から北穂高沢を下山中、滑落
5月1日	中央アルプス 空木岳	男	66	無事救出	疲労	2人パーティで池山尾根を登山中、疲労により、行動不能
		女	26	無事救出	疲労	
5月2日	北アルプス 蝶ヶ岳	男	55	無事救出	道迷い	2人パーティで蝶ヶ岳から横尾に向けて下山中、残雪により道に迷い、行動不能
		女	59	無事救出	道迷い	
5月4日	北アルプス 白馬岳	男	47	負傷	転倒	単独で入山し、宿泊した山荘を出発した直後、転倒、負傷
5月4日	北アルプス 奥穂高岳	男	50	負傷	滑落	4人パーティで奥穂高岳南陵を登山中、足を滑らせて、滑落、負傷
5月4日	北アルプス 前穂高岳	男	35	負傷	滑落	3人パーティで前穂高岳北尾根を登山中、足を滑らせて、滑落、負傷
5月4日	八ヶ岳連峰 醤油樽の滝	女	59	負傷	滑落	3人パーティで醤油樽の滝付近を登山中、足を踏み外し、滑落、負傷
5月4日	北アルプス 有明山	男	25	負傷	その他	2人パーティで有明山に向けて登山中、岩に足を挟み、負傷
5月4日	北アルプス 有明山	男	25	無事救出	疲労	2人パーティで有明山に向けて登山中、疲労により、行動不能(上記遭難者の同行者)
5月4日	北アルプス 五竜岳	女	47	負傷	転倒	7人パーティで五竜岳から遠見尾根を下山中、アイゼンを岩に引っ掛けて転倒、負傷
5月4日	北アルプス 爺ヶ岳	女	51	負傷	滑落	4人パーティで爺ヶ岳に向けて冷尾根を登山中、滑落、負傷
5月5日	北アルプス スバリ岳	男	57	負傷	滑落	単独で爺ヶ岳に向けて縦走中、滑落、負傷
5月5日	北アルプス 蝶ヶ岳	男	64	無事救出	その他	2人パーティで蝶ヶ岳から下山中、足を滑らせて、滑落、技量不足により、行動不能
5月5日	子檀嶺岳	男	68	負傷	転倒	単独で子檀嶺岳から下山中、転倒、負傷
5月5日	離山	女	48	負傷	転倒	3人パーティで離山に向けて登山中、バランスを崩して、転倒、負傷

5月5日	北アルプス 蝶ヶ岳	男	24	無事救出	その他	2人パーティで蝶ヶ岳へ登山中、装備不足により、行動不能
		男	23	無事救出	その他	
5月5日	北アルプス 奥穂高岳	男	33	死亡	滑落	単独で奥穂高岳に向けて縦走中、何らかの原因により、滑落
5月6日	北アルプス 槍ヶ岳	男	35	負傷	転倒	単独で槍ヶ岳から下山中、足を滑らせて、転倒、負傷

■ 令和6年(2024年)中の山岳遭難発生状況 令和6年(2024年)1月1日～5月6日

区分	発生件数	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計	内)死傷者
令和6年(2024年)	82	14	0	33	47	94	47
内)単独登山	27	7	0	9	11	27	16
令和5年(2023年)	77	13	2	39	38	92	54
内)単独登山	29	5	0	10	14	29	15
前年同期比	+5	+1	-2	-6	+9	2	-7
内)単独登山	-2	+2	±0	-1	-3	-2	+1

■ 山域別発生状況 令和6年(2024年)1月1日～5月6日

区分		件数	件数比	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
北アルプス	槍穂高	11	13.4%	2	0	5	6	13
	後立山	20	24.4%	2	0	9	14	25
	その他	6	7.3%	1	0	3	3	7
	計	37	45.1%	5	0	17	23	45
中央アルプス		7	8.5%	3	0	2	4	9
南アルプス		0	0.0%	0	0	0	0	0
八ヶ岳連峰		21	25.6%	4	0	8	10	22
その他の山岳		17	20.7%	2	0	6	10	18
計		82		14	0	33	47	94

■態様別発生状況 令和6年(2024年)1月1日～5月6日

区分	件数	件数比	死者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
転・滑落	21	25.6%	6	0	15	0	21
転倒	13	15.9%	0	0	13	0	13
病気	2	2.4%	1	0	0	1	2
道迷い	18	22.0%	0	0	0	24	24
落石	1	1.2%	0	0	1	0	1
雪崩	5	6.1%	2	0	2	3	7
落雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	9	11.0%	3	0	0	7	10
不明・他	13	15.9%	2	0	2	12	16
計	82		14	0	33	47	94

■男女別・年齢別比率 令和6年(2024年)1月1日～5月6日

区分	男性				(人)		女性				(人)		男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計	比率	死者	不明	負傷	無事	計	比率	人数	比率
19歳以下	0	0	1	1	2	27 36.5%	0	0	0	1	1	4 20.0%	3	31 33.0%
20代	1	0	4	8	13		0	0	0	3	3			
30代	2	0	3	7	12		0	0	0	0	0			
40代	4	0	3	4	11	34 45.9%	0	0	2	2	4	13 65.0%	15	47 50.0%
50代	4	0	8	11	23		1	0	5	3	9			
60代	1	0	3	4	8	13 17.6%	0	0	1	0	1	3 15.0%	9	16 17.0%
70以上	1	0	3	1	5		0	0	0	2	2			
計	13	0	25	36	74		1	0	8	11	20		94	
比率	78.7%						21.3%							

内容は長野県警察本部の発表時点のものです。

\* 本通信に関するご質問・ご意見は「長野県観光部山岳高原観光課」[jmt-tourism@pref.nagano.lg.jp](mailto:jmt-tourism@pref.nagano.lg.jp)までお寄せください。

＝発行：長野県山岳遭難防止対策協会＝

春の大型連休中の山岳遭難発生状況

1 期間中の発生状況

年 別 区 分		R 6	前年比	R 5	R 4	R 3	R 2	H31 (R1)
		4/27~5/6 10日間		4/29~5/7 9日間	4/29~5/8 10日間	4/29~5/9 11日間	4/25~5/9 12日間	4/27~5/6 10日間
発生件数		26(8)	+ 8	18(8)	7(1)	14(3)	3(0)	18(6)
遭 難 者 者 (人)	死 者	3(2)	- 1	4(3)	1(0)	6(3)	0(0)	3(1)
	行方不明	0(0)	± 0	0(0)	1(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	負 傷 者	15(3)	+ 6	9(3)	3(1)	2(0)	1(0)	10(4)
	無事救出	12(5)	+ 4	8(4)	2(0)	7(1)	2(0)	8(1)
	計	30(10)	+ 9	21(9)	7(1)	15(4)	3(0)	21(6)

※ ( ) 内は県警山岳遭難救助隊が常駐した槍・穂高連峰「涸沢」周辺の発生で内数

2 遭難の特徴

- (1) 山域別では、北アルプスで17件(約65%)の遭難が発生し、うち槍穂高連峰が8件
- (2) 態様別では、「転倒」が9件、「滑落」が7件、「道迷い」が3件、「疲労」が2件
- (3) 年齢別では、40歳から50歳代が最多の13人(約43%)、次いで60歳以上が9人(30%)

3 遭難事例

- (1) 北アルプス北穂高岳における滑落遭難  
4月30日、北穂高岳から北穂高沢を下山中の4人パーティのうち、島根県在住の54歳女性が滑落。涸沢に常駐していた県警山岳遭難救助隊員が通報を受理して出動し、悪天候の中、約6時間をかけて陸路で搬送。(女性は搬送後、救急隊により死亡確認)
- (2) 中央アルプス空木岳における疲労による行動不能遭難  
5月1日、池山尾根から空木岳に向けて登山中の岐阜県在住の66歳男性と愛知県在住の26歳女性の2人パーティが疲労のため行動不能となり、午後7時45分に救助要請を受理。翌2日に県警ヘリで2人を救助。
- (3) 北アルプス五竜岳における転倒遭難  
5月4日、五竜岳から遠見尾根を下山中の7人パーティのうち、兵庫県在住の47歳女性が、アイゼンを岩に引っかけて転倒し負傷。県警ヘリで救助。

4 救助活動等

- (1) 山岳遭難26件のうち警察ヘリは、11件に出動し、12人を救助・収容した。
- (2) 救助活動には、警察官延べ92人と遭対協・消防等を含む延べ47人が従事した。
- (3) 県警山岳遭難救助隊は、4/27から5/6までの間、北アルプス涸沢に常駐したほか、北アルプス白馬連峰、中央アルプス、八ヶ岳連峰等において登山者指導及び山岳パトロールを実施した。
- (4) 4月上旬からX(旧Twitter)を活用し、遭難防止に資する情報発信を強化したほか、大型連休期間中も登山道の状況等についてタイムリーな情報発信を行い、登山者の安全意識の向上を図った。